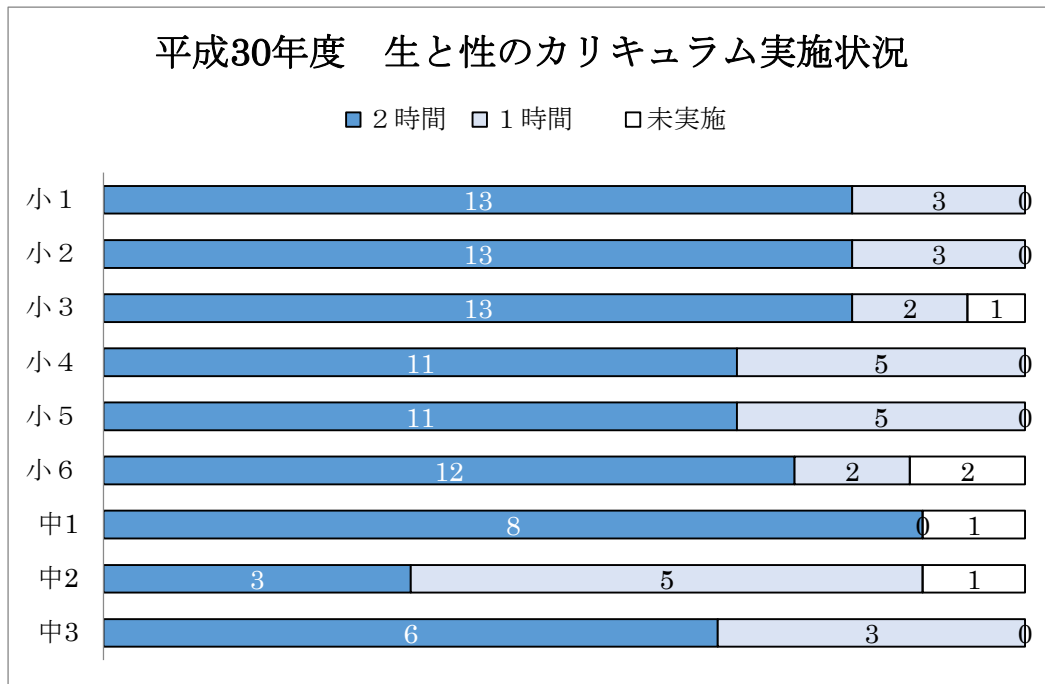


平成 30 年度「生と性のカリキュラム」実施状況報告

令和元年 6 月 小牧市母子保健推進協議会

1 「生と性のカリキュラム」実施状況について



○ 2 時間完全実施している学校は、小学校 16 校中 9 校、中学校 9 校中 4 校であった。（昨年度は小 9 校、中 6 校）

○ 1 時間内に（生）共に生きる学習と（性）いのちの学習の両方を盛り込んで実施したり、学年集会と学級活動に関連して行ったりして、ねらいに迫るよう工夫している学校もある。

○ 保健センター保健師を講師に招いた授業や、セルフディフェンス講座等、専門家と連携して授業を行い、効果を上げている学校が多い。特に小学校 2 年生、中学校 3 年生の授業では、学校と保健センターとの連携が定着してきた。

○ 小学校では、学校公開日（保護者参観）に授業を行い、命の大切さや家族との絆、自己肯定感を高める内容において効果を上げている。

△ 一人一人により指導内容を浸透させるために特別支援学級単独での授業の実施や、LGBT など、性の多様性にも視点をおいた授業展開の必要がある。

△ 道徳、理科、生活科等他教科と関連させ、内容を整理することで授業時間の確保や効率化につながる。

△養護教諭が授業に積極的にかかわったり、外部講師や専門家とのコーディネータ的な役割を果たしたりすることで、より充実したものになるのではないか。

△時代の流れや健康課題に合わせたカリキュラムの見直しが必要である。

2 各学校の取組報告

・成果と課題・児童生徒の様子について

(生) 共に生きる学習 (性) いのちの学習 △課題

小1 (生) 「知らない人にはついていかない」

・セルフディフェンスで外部講師の話聴いた後、学級で担任が指導し、実施した。身を守る方法について、子どもたちにとってとても理解しやすかった。

・保健室の資料を使い、自分の身を守るために効果的な指導をすることができた。

△セルフディフェンス講座は、6年間で2回、1年と4年で実施している。効果的な内容と思える点も多いが、やや高圧的なものを感じるのと、例年同じ内容なのでマンネリ的なものを感じる。

小1 (性) 「どこがちがうの おとこのこおんなのこ」

・男女の体の違いについてはじめて学習したこともあり、子どもたちは興味深く話を聞いていた。特に女性の性器について「おしっこが出るところ」「赤ちゃんが出てくる場所」「うんちが出てくる場所」があることを説明すると、はじめて聞いて勉強になったとワークシートに記入している子が多かった。

・新しく知る言葉も無理なく伝えられた。自分の体を大切にしようという気持ちをもつことができた。

・プライベートゾーンを学び、その後の体育時の着替えも意識して行うことができた。

・黒板への掲示資料を使って、日頃の生活を振り返りながら考えさせることができた。

小2（生）「わたしのたいせつないのち」

小2（性）「おへそのひみつ」

※保健センター助産師との連携による授業

- ・命の始まりから誕生までを学んだ。胎児人形、胎児の心音、出産体験など、2年生の児童がとても分かりやすく、感動のある学習であり、命の大切さについて考えることができた。また、子どもたちは、家族に対して感謝の気持ちをもつことができた。
- ・人形を見て学んだり、受精卵の大きさを知ったりして印象に残る授業だった。道徳の命に関わる授業や生活科の成長に関わる授業にも関心をもって取り組めた。
- ・保護者も参加しながら親子のつながりを児童に考えさせるよい機会となっている。
- ・胎児の人形を抱っこしたり胎児の心音を聞いたりした。命の始まりが非常に小さいことを知り、児童の印象に残る授業となった。
- ・命の大切さについて家庭でも話し合う機会となった。
- ・保護者の参加も多く有意義なものになった。今後もぜひ継続していただきたい。
- ・公開日ではなかったが、参加された保護者から好評だった。

小3（生）「テレビ、ゲームとのつきあい方を考えよう」

- ・ゲームやテレビの時間がかなり長い子もいたので、自分の生活を振り返るよいきっかけとなった。
- ・ブレーストーミングでTVゲームとのつきあい方に関するアイデアをたくさん出せた。養護教諭からもアドバイスをもらい保健的な視点からも聞くことができた。
- △ゲームに関する授業だったため、興味を持って取り組んでいたが、時間を決めて遊ぶなどのルールが子どもたちの行動につながるか疑問に思うところもある。

小3（性）「未来にいのちをつなげるために」

- ・何代も前からの先祖から命をつないできたから今の自分がいることを知り、命を大切にしようという気持ちを高めた児童が多か

った。また、自分の命を大切にするため、「うがい、手洗いを
する」「自転車に乗るときは、ヘルメットをかぶる」など具体的
な方法について話し合うことができた。

・道徳の「ヌチヌグスー ジー いのちのまつり」という教材に関
連付けて授業を行った。自分の先祖を黒板にどんどん書き込んで
いったり、たくさんの命がつながっている様子のイラストを見た
りして驚いている子どもたちの姿があった。視覚的に捉えること
でより印象に残ってよかった。今ある命に感謝しよう、未来に命
をつなげるため今ある命を大切にしようといったテーマについ
て、改めて考えることができたよい機会となっていたと感じた。
△今年度から道徳「つながっている命」で「いのちのまつり」の
絵本内容を使って学習することになったので「生と性のカリキュ
ラム」の内容と上手にリンクさせることが必要になってくる。

小4（生）「自分やまわりの人を大切に」

- ・児童は、命を守ることは自分自身であり、大切にすることも自
分自身だということが分かったようだ。
- ・2分の1成人式に向けて授業を行い、周りの人に支えられ、共
に生きて成長していることを感じたようだ。

小4（性）「かわっていく ぼくたちわたしたち」

- ・教科保健と関連させて学習した。体の変化について図やグラフ
を使って説明しているので分かりやすく、グループでの活動や話
し合いが活発に行われた。
- ・人生テープは児童にとって、とても考えやすく、なかでも思春
期の部分が斜め線になっており、少しずつ変わっていくことが納
得できたようだった。
- ・教科保健の学習内容と関連付けながら養護教諭が授業をしたこ
とで、児童の関心も高く、自分自身のこととして受け止めていた。
- ・養護教諭が指導計画を作成して学年の先生と事前打合せをし、
担任と養護教諭がそれぞれの授業を分担して進めた。
- ・養護教諭が男女の体の違いについて、大切なことや成長するた
めに大事なことについての授業を行い、児童の印象に残っていた。

・児童たちの照れなどが見られた。しかし、図の拡大版などもあり子どもたちにとってよく理解できたと思う。

・これから思春期を迎えるこの時期の子どもたちには押さえておくべき大切な内容だと思う。体の成長や男女差など、1学期の保健とも重なる内容だが、改めて取り上げて押さえることができ、有意義だった。

・今後の心と身体の変化に目を向けることができた。

△難しい内容だったため「生命の誕生」等の動画を上手に活用できるとよかった。

小5（生）「男らしさ女らしさについて考えよう」

・「共に生きる」は道徳の内容とも重なるところがあり、カリキュラムから少し変更して実施した学級もあった。身近な内容で、子どもたちはよく考えていた。

・性差に関係なく職を考えてもよいという意見が広がり、将来への展望を持つことができた。

小5（性）「すばらしい命」～生命のたんじょう～

・理科の単元「人のたんじょう」と関連付け、知っていること、知らないことを共有し、各自、聞き取り調査や本などで調べ、分かったことや感じたことをプリントに書いた。生命の神秘や生まれてきたことへの感謝をまとめる児童が多かった。

小6（生）「自分で守る心とからだ」

・学校公開日に合わせ、スマホ教室を開いた。

・スマホ使用に関する問題点や今後の使用に関するモラルについてなど、保護者にも関心をもってもらえることができた。

・特に LINE の便利さと怖さを知ってもらい、今後の生活に活かせるように指導した。自分と照らし合わせて考えることができた。

・スマホに潜む危険についてしっかりと考えることができた。スマホを持っていない児童にも有効だった。

・公開日で保護者も参観したので、児童のふりかえり以外に、保護者にもアンケートを書いていただいた。

小6（性）「エイズ 共に生きる」

- ・エイズについて正しく理解することができ、予防しようという意識を身につけた。
- ・保健の授業とからめて、担任がエイズについての授業を行った。エイズの現状を知り、エイズとともに生きる大切さを学ぶことができた。
- ・養護教諭の専門的な話を聞くことができ、自分の成長を知って喜んでいて、自分だけでなく、異性も尊重し、認めていこうとする気持ちが高まった。

特別支援学級（生・性）

- ・小1から小6まで全員が養護教諭の話の聞いたり、クイズに答えたりして、45分間集中して「おへそのひみつ」や「命」について考えることができた。胎児が誕生する場面や医者（役の教師）がへその緒を切る場面があり、イメージができた。ひとり一人の誕生や存在が尊重される授業だった。

【中学校】

中1（生）「心を守る からだを守る」

※セルフディフェンス講座（外部講師による学習）

- ・トラブルやSNSへの対応を学んだ。生徒は興味深く聞いておりよかった。
- ・外部講師による、自分も他者も大切にするという観点での具体的な説明は効果的であった。
- ・専門家の話を聞いた後、関連させて学級活動で担任が指導した。
- ・講座の後にも、どうすれば身を守ることができるかについて、友達同士で話し合う様子が見られた。

中1（性）「自分らしさって何だろう」

- ・自分を見つめさせる展開にアレンジして学年集会で行った。自分らしさについて考えさせることができた。自己肯定感を高めるための大切な内容であった。

- ・ 1 学期の学年集会、 2 学期の保健体育の授業と関連させて、 3 学期に学級活動で担任が実施した。ねらいにより迫ることができるよう、 3 時間の授業のつながりを意識して行った。

中 2 (生) 「手軽な出会いに潜む危険」

- ・ 「スマホ・ケータイ安全教室」を行った。分かりやすくよかった。
- ・ 保健体育と関連づけて、AEDを使用した心肺蘇生の実習を交えて行うことで、生命の大切さや自分の果たすべき役割について考えることができた。
- ・ バレンタインデーの近くで行ったため、男女交際についてタイムリーな授業になった。一人の人間として、何を大切にして相手と付き合うことが必要なのかについて考え、互いの考えを、グループや学級での話合いを通して共有することができた。

中 2 (性) 「人を好きになる心」

～異性との付き合い方について考えよう～

- ・ 学年集会という形で養護教諭が行った。「つきあうときに大切にしたいこと」をグループで話し合わせたが、全体の場ではなかなか意見を言いづらそうであった。ワークシートに書かせたり、巡回したりしてつぶやきを拾うなどの工夫をしたい。
- ・ 性の多様性にも触れた。ここ最近、メディアにも取り上げられるようになったせいか、生徒の反応は昨年に比べてとても落ち着いていた。
- ・ 学年集会で実施する予定。性的マイノリティにも触れ、人を好きになる心について考えさせる。

中 3 (生) 「すてきな大人になろう」～自立ってなんだろう～

- ・ 「すてきな大人になろう」というテーマで、すてきな大人がどんなイメージか話合い、人としての生き方を考えることができた。

中 3 (性) 「すてきな大人になろう」～性感染症の予防～

※保健センター保健師との連携

- ・保健センターの保健師に講師を依頼した。色水実験は性感染症の感染の広がりをイメージさせるのに効果的であった。性に関する確かな判断や意思決定につながる指導となるよう工夫した。
 - ・色水実験で性感染症の広がりを考えたり、赤ちゃんの人形を使って命の大切さ考えたりした。専門家の授業であったため効果的な指導になった。
 - ・赤ちゃん人形を抱くときの生徒の表情がとても柔らかい。
 - ・色水実験から性感染症の感染の広がりをイメージすることができた。性に関する確かな判断ができるよう学級で確認した。
 - ・学年の教師の話を変えたりして行った。生徒の印象に残る授業となった。
- △1時間の授業の中で内容が盛りだくさんになってしまい、振り返りを書かせる時間までなかなか確保できない。

中3（生・性）

- ・11月～2月に3時間で「いのちの授業」を実施した。担任がT1、3年所属や養護教諭がT2となり、TTで実施した。胎児の成長などにも触れ、卒業に向けていのちの大切さについて学習した。
- △やらなければならないことが数多くある中、生と性のカリキュラム実施の時間を確保することが難しい。
- △指導内容が時代に即していない気がする。